

書ニ就テ自己ノ意見ヲ記シタルトテ併セテ其包内ニ入レ之ヲ陸軍卿ニ呈スヘシ

第二十六條 其軍人或ハ隊中ニ在リ或ハ他ノ麻署等ニ屬シテ遠隔ノ地ニ在リ送還爲シ易カラサルハ鎮臺ノ司令將官ノ命ヲ以テ司契ヨリ其出ス所ノ願書ヲ近傍ニ駐紮スル兵隊ノ會計會議ニ送達シテ事ニ從ハシム

第二十七條 陸軍卿ハ其軍人服役ニ堪エサル者アレハ公命ニテ之ニ退職恩給ヲ願ハシムルコトアルヘシ

其願書送呈ノ法ハ前數條ニ擧ケタル所ニ異ナルコトナク又傷痍疾病ニ由ルモノハ後ノ第四十九條ニ擧ルカ如シ

上長官士官並ニ會計軍醫馬醫各部右同等ノ輩ニ對シテハ陸軍卿ヨリ旨ヲ諭シ准士官以下ノ服役十五年ニ滿キタル者ハ其隊ノ長官其服役ニ堪エサルヲ認メタル時ハ其旨ヲ諭シテ退職ヲ願ハシムルヲ得然レモ其願書ハ猶其部ノ檢閱使ノ手ヲ歷テ陸軍卿ニ呈スヘシ

第二十八條 其他軍人ハ一定ノ年齢ニ至リタル時

其退職恩給ヲ獲ルコトニ就テ定メタル年限満期ノ者ハ其服役ヲ辭シテ致仕スルヲ例トス其年齡定限ハ左ノ如シ

監督	軍醫監	藥劑監	六十
參謀大中佐	副監督	司契	軍吏正
軍醫正	藥劑正	馬醫監	五十七
大中佐	參謀少佐	監督補	司契副
軍吏	軍醫副	藥劑副	馬醫
五十四	少佐	參謀大尉	軍吏副
五十一	軍醫副	藥劑副	馬醫副
大尉	參謀中尉	軍吏補	軍醫補
藥劑官補	馬醫補	藥劑長	砲工兵上等監護
砲工兵上等監護	砲工兵監護	監査諸工長	同下長
四十八	中少尉	下士	兵卒
四十五	井	同等ノ輩	三十五

十四 千葉縣

第二十九條 前條ノ年齡定限アリト雖モ猶任用ニ堪エ若クハ材能特拔ナル者ニ於テハ上長官士官並ニ會計軍醫馬醫各部右同等ノ輩ハ陸軍卿ヨリ留任ヲ命シ准士官以下ハ所部ノ長官ヨリ請求シテ留任ヲ請フヲ得ヘシ但強テ致仕ヲ願フハ此例ニ在ラス

第三十條 其他軍法會議ノ列位要塞參謀科文庫主管等老練ノ人ヲ要スル職務ハ皆陸軍卿上條ノ例ニ準シ時宜ニ依テ之ヲ取捨スヘシ

第三十一條 凡ソ恩給ノ爲ニ服役年限ヲ算計スル

服役年限  
算則

ノ法ハ陸軍ニ於テハ二十歳未満ヲ算スルコトヲ得ス二十歳未満ノ者ハ當人自己ノ意ヲ以テ就役ノ約ヲ結ビ得サルモノトス

第三十二條 服役年限ノ始期ハ左ノ如シ

其一 明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ都テ同月ヲ以テ始トス

其二 徴兵ハ入營初日即チ毎年四月二十日ヨリ起算スヘジ

其三 壯兵其他諸種ノ方法ニテ入隊ヲ得ル者ハ

十五 千葉縣

入隊當日ヨリ起算スヘシ

第三十三條 徴兵補充兵ノ後來入隊シタル者恩給ヲ受ルニ至ルノ期ハ其補充兵在役ノ期ヲモ算シ

常備入營期日即チ四月二十日ヲ以テ起算スヘシ

第三十四條 其軍人一時旗下現役ニ就クノ後轉シ

テ後備軍士以上ニ入ル者ハ何等ノ名義タルヲ論

セス後備軍ニ在ルノ時日ヲ服役實期トシ之ヲ

算ス此條現今未

第三十五條 其軍人海軍ニ奉仕シ其恩給ヲ受ルノ權ヲ有スル者合格ノ故ヲ以テ轉シテ陸軍ニ奉仕

スルキハ以前海軍服役ノ實期ヲ以テ陸軍服役ノ  
實期ト通算スルコトヲ得  
文官ヨリ武官ニ轉スル者ハ以前奉仕ノ時日ヲ以  
テ陸軍服役實期ト通算スルコトヲ得ス

第三十六條 服役ノ算計第三十一條ノ如シト雖モ  
陸軍士官學校生徒並ニ教導團生徒成業ノ上士官  
下士ニ任スル者ハ其學期ノ若干ヲ論セス概シテ  
就任ノ前二年ヲ通算スルコトヲ得幼年學校ノ生  
徒ハ滿十七歳ニ至リシヨリ通算スルコトヲ得軍  
醫部ノ士官以上ハ軍醫副官ノ別ナク又陸軍軍醫

十六 千葉縣

學校ヨリ出身スルト他ヨリ出身スルトヲ論セス  
其軍醫補ニ任スルノ日ヨリ前三年ヲ通算スルコ  
トヲ得

馬醫部ノ上長官士官下士モ亦軍醫ト同シク馬醫  
生ニ任スルヨリ前二年ヲ通算スルコトヲ得ヘシ  
以上生徒通算ノ年數如斯定ムト雖モ學校長官ノ  
證書ニ因リ或ハ之ヲ延縮スルコトアルヘシ

第三十七條 其他火工銃工等ノ生徒ハ十七歳以上  
ハ奉命ノ日ヨリ十七歳以下ハ滿十七歳ニ至リシ  
ヨリ停年恩給ヲ受ルノ例ニ算入スルヲ得

第三十八條 若シ國民軍ヲ現役ニ徵發スルコト有テ既ニ恩給ヲ受テ退職シタル軍人再ヒ國民軍現役ニ就ク時其恩給ハ其現役ノ給料ト共ニ之ヲ受ルコトヲ得ヘシ然レモ前後ノ服役實期ヲ通算シテ其恩給ヲ増加スルヲ得ス但シ從軍傷病疾病ノ事アレハ其時ノ殊典ニ從フ

第三十九條 其上長官士官准士官並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ輩服役實期未タ二十五年ニ滿タサル前免官セラレ後再ヒ現役ニ據シタル者ハ免官以前ノ服役時日ヲ恩給ノ期限内ニ算入ス

十七

千葉縣

ルヲ得但シ中間間斷ノ時日ハ之ヲ除クヘシ(非職ハ其非職中ノ年數モ合算ス)

其官階前後同等ナル時ハ直チニ其官階ニ屬スル恩給ニ從フ然レモ後役ノ時ノ官階前時ヨリ降ル時ハ退職ノ月其官階ニ屬スル恩給ノ外ヲ望ムノ權ナシトス

第四十條 逃亡以前ノ服役モ亦其以後ノ服役ト通算スルコトヲ得ヘシ然レモ後ノ服役ハ處刑後復隊ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 凡ソ軍人服役中懲罰五日以上ニ上ル

算年從  
則ノ軍

者ハ除テ算セズ其除算ノ法七日ヲテハ一月ヲ  
除キ二七日ハ二月ヲ除キ三七日ハ三月ヲ除  
キ四七日ヨリ三月迄ハ半年ヲ除キ三月以上  
六ヶ月十五日迄ハ一年ヲ除キ餘ハ其實期ヲ算シ  
テ之ヲ除ク例ハ六月二十一日ハ一年ト一日ヲ  
除ク以下皆准之

第四十二條 軍人停年恩給ヲ受クヘキ服役期限ニ  
違スル者ハ其年限ノ中ニ從軍年ヲ算入スルヲ許  
ス其法左ノ如シ

第四十三條 其實期ノ中ニ從軍年ヲ二倍シテ算入

十八 千葉縣

スルハ

戰時日本外ノ戰地服役

第四十四條 其實期ノ中ニ從軍年ヲ全年トシテ算  
入スルハ

第一 内地戰時ノ定ニテ戰崗ニ因テ世ノ靜謐ヲ  
擾スルニ與カリテ力アル時

第二 戰時平時ヲ論セス日本外ノ地ニ於テ戰戍  
シタル軍隊ニ在ル時

第三 海戰ノ時ニ當リ其船中ニ在ル時  
第四 平時新嘉坡ヨリ西ハ聖佛朗士西哥ヨリ東

傷病ノ願  
傷病ノ願  
傷病ノ願  
傷病ノ願

へ差遣レテ服役セシメタル軍人

第五 北海道ノ衛戍其他該地ニ半年以上札駐スル兵役ニ服シタル軍人

第四十五條 實期ノ中半數トシテ之ヲ算入スルハ海戰ノ時ニ當リ海岸防禦ノ服役

第四十六條 戰時虜獲ニ逢ヒ外國へ俘囚トナリタル時日ハ猶現役ニ在ルカ如ク之ヲ算ス

第四十七條 凡ノ恩典トシテ從軍年ヲ算スルノ法ハ其期十二ヶ月ニ足ラサル者ト雖モ之ヲ滿一年トシテ算ス然レモ十二ヶ月間假令ヒ數回ノ軍役

十九 千葉縣

ニ從フト雖モ之ヲ二年以上トシテ算スルコトヲ許サス其一期一年以上ニ跨カリ十二ヶ月ニ餘ル所ノ分數ハ之ヲ全一年トシテ算スルコトヲ得

第四十八條 從軍年ヲ算入シ及ヒ刑罰ニ因テ除キタル年月ヲ折算シテ其計算ヲ進達書ノ裏面ニ記載スベシ

第四十九條 凡ソ傷病疾病ニ由テ退職恩給ヲ願ハント欲スル者ハ其服役ヲ離ル、前ニ之ヲ願フヘシ

第五十條 如此キ軍人ハ傷病疾病ノ源因ニ依リ合

格ノ年齢ノ前ニ恩給ヲ得ント欲スルヲ以テ其傷  
病疾病ノ原因症候トモ極メテ曲節ヲ悉シ之ヲ陳  
述スルコト必要タリ

第五十一條 其傷病疾病ヲ受ケシ事故並ニ原因ハ  
之ヲ証明スヘキ公ケノ報告若クハ他ノ公文ニ係  
ル書類ヲ據証トナシ疾病ヲ受ケシ時刻並ニ其時  
ノ景況ハ陸軍官憲ノ戰地ノ司令官分遣隊ヲ司令  
スル下士大隊長幕員士官等ニテ二人若クハ三人  
ノ証人ノ前ニテ認メタル證書ヲ據証トシ又ハ其  
官憲ヨリ發シタル報告若クハ査問會議ノ書ヲ據

証トナスヘシ

右ノ據証ニ供スル書中ニハ其傷病ノ性質及ヒ之  
ヲ受ケタル時刻之ヲ受ケタル地所並ニ戰爭間ニ  
テモ公務上ニテモ之ヲ受ケタル時ノ景況ヲ特別  
ニ奉章シ又凡テ醫家ノ診斷ニテ不治トナス者ハ  
悉ク之ヲ記載スヘシ

第五十二條 其傷病疾病ノ不治タルコトハ陸軍病  
院ノ病院長若クハ最後ノ治術ヲ施シタル市井病  
院ノ醫長ヨリ特別ノ證書ヲ以テ之ヲ確証スル者  
ニシテ此証書中ニ傷病疾病ノ原因症候是ニ施シ



タル醫療ノ方法ヲ述ヘ以テ其不治タルヲ明カ  
ニ申述スベシ

其軍人右ノ病院ニ就テ治療ヲ受ケサル者ニハ陸  
軍病院若クハ市井病院ノ醫長診察ノ上ニテ証書  
ヲ授クヘシ

第五十三條 退職ノ願書ハ其軍人ノ屬スル隊ノ會  
計會議若クハ鎮臺司令將官ヨリ指定シタル隊ノ  
會計會議ヨリ其保證書類ト共ニ司契ニ送付ス司  
契此書類凡テ例規ニ合ヒタルモノト認ルルハ之  
ニ捺印署名シ之ヲ鎮臺司令將官ニ呈ス是ニ於テ

司令將官ヨリ軍醫正二員並ニ初メ証書ヲ認メタ  
ル者ノ外其隊ニ屬スルト他隊ニ屬スルトニ論ナ  
ク軍醫若クハ軍醫副補ノ内二人ヲ命シ之ヲ檢査  
セシム

第五十四條 其命セラレタル所ノ軍醫ハ司契並ニ  
其隊ノ會計會議員ノ前ニテ檢査ヲナシテ後檢査  
口供ヲ作ルヘシ而シテ此時兩軍醫ノ診斷否ナル  
時ハ其恩給願ハ他日ニ延ハシ司契ハ兩軍醫ノ口  
供書ヲ取り之ヲ記室ニ納ムヘシ總テ檢問使又ハ  
平常ニテハ鎮臺司令將官ハ如此キ場合ニ於テハ

其兩軍醫ヲシテ手術ヲ行ハシムルヲ得

第五十五條 其兩軍醫ノ検査ニテ當該軍人退職恩給ヲ受ルノ權アリト認ムル時ハ兩軍醫更メテ診斷書ヲ作ルヘシ此證書ハ別ニ一通ノ寫ヲ作り先ノ口供書ニ綴リ込ミ一包トナシテ檢閱使又ハ檢閱ヲナス司令將官ニ呈スベシ

第五十六條 檢閱使又ハ檢閱ヲナス司令將官ハ此書類並ニ検査口供書ヲ一覽シタル後先キニ命シタル二員ノ軍醫正ヨシテ其面前ニテ査覈ヲナサシムヘシ

而シテ司契ハ此査覈ヲ助テ此査覈ニ就テ再ヒ口供書ヲ作り而シテ二員ノ軍醫正ハ新ニ證書ヲ作テ其口供書ニ綴リ込マシムヘシ

第五十七條 此査覈ヲ經テ願意本ヲク所アリト認メタル時ハ檢閱使又ハ檢閱ヲナス司令將官之ヲ會計會議ニ下シ退職恩給許可ヲ請フノ進達帖ヲ作ラシメ而シテ監督査照ヲ遂ケ將官可トスルノ後其帖ト諸書類並ニ其願書ニ就テ自己ノ意見ヲ記シタルトヲ併セテ其包内ニ入レ之ヲ陸軍卿ニ呈ス

第五十八條 其軍人屬スル所ノ隊ヨリ離レテ遠方ニ在ル者ハ鎮臺ノ司令將官ノ命ニテ其近隣ノ隊ニテ其願書ノ振ヒヲナサシムヘシ

第五十九條 恩給ノ願文ハ一次ニ服役停年ト傷痍疾病トヲ主意トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス其軍人停年ノ恩給ヲ受ル權利ヲ有シ同時ニ傷痍疾病ノ恩給ヲ願ハント欲スル者ニハ先ツ其願文何レノ式ヲ用ニヘキヤヲ問ヒ而シテ自ラ撰フ所ニ應スヘシ

第六十條 上長官士官准士官並ニ會計軍醫馬醫軍

衆各部右同等ノ輩服役實期十五年以上ニ至リ病氣ニテ三年來非職ニ在リ現役ニ復ス可ラサルカ爲ニ退職ヲ許サシムル者ハ初メニ查問會議ニ於テ之ヲ檢査シ會議ノ商評之ヲ應當ナリト決スル時ハ直チニ退職ノ進達帖ヲ作ラシム此進達帖會議ノ口供書ト共ニ陸軍卿ニ送スル時ハ卿之ヲ處分シ該官ヲシテ退職ニ因テ罷役後恩給ヲ受ルコトヲ得セシム

第六十一條 停年ニ就テ恩給ヲ仰グノ權アル軍人登時事故アリテ服役ヨリ引去リタル者ハ其願書

服役ニ在  
服ヲサ  
ル軍人  
特

ヲ要用ノ書類(服役ノ明細書並ニ身元履歷書)ト共  
ニ取揃ヘテ其軍管ノ領臺ノ司契課ニ致スヘシ司  
契課ニテ之ヲ檢査シ書類ニ檢印署名シ之ヲ領臺  
ノ司令將官ニ呈スヘシ

第六十二條 其軍人傷痍疾病ノ爲ニ増給ヲ請フ者  
ハ左ノ方法ニ從フヘシ

若其傷痍疾病ニ因テ既ニ恩給ヲ受ルノ後引續キ  
重症ニ趣ギ一肢ヲ失フニ至ラシメタル時ハ當該  
軍人其恩給ニ就テ更ニ増算スルコトヲ得ヘシ  
又第一號休暇ヲ得テ服役ニ入りタル後其傷痍疾

病以來引續キ重症ニ至リタル軍人上ト同一ノ事  
情アルニ臨ンテハ恩給ヲ伸クコトヲ得ヘシ但シ  
前ノ第九條ニ掲前スル所ノ症候アル者ニ限ルヘ  
シ

凡テ如此キ軍人ノ情願ハ其現役ヲ離レシヨリ  
算シテ一年內ナレハ之ヲ達スルコトヲ得ヘシ然  
レモ其傷痍疾病一肢ノ切斷ヲ促シ或ハ兩眼ヲ盲  
スルニ至リタル者ニハ延イテ三ケ年內ニ至ルヘ  
シ

第六十三條 其願書ハ領臺ノ司契課ヘ致シ其保証

ノ書類ヲ副フヘシ其書類ハ

第一 當該軍人服役ヲ離レシ時其傷病疾病ハ例規ニ準シ查覈ヲ受ケタルヲ証スル諸公文

第二 現役ヲ退キタルヲ証スル休暇免狀並ニ諸公文

第三 軍醫ノ診察口供書並ニ診斷證書 是ハ軍人市井ノ籍ニ據セシ以來其療用ヲ受ケタル軍醫ヨリ其傷病疾病引續キ重症ニ變シタルヲ以テ退職恩給若クハ計算増加ヲ願フニ至ルヲ証スル者

但シ軍醫ナキ地方ニ於テハ市井ノ醫員執事一人外二人ニテ診斷レ府縣廳ノ役員立會ノ上證書ヲ認メ役員與印シテ所管鎮臺ノ司契課ニ致スヘシ

第六十四條 司契課ニテ之ヲ受ケタル時其日附ヲ檢シ期限内ニ在レハ鎮臺ノ司令將官ニ呈シ將官一覽ノ後再ヒ司契課ニ下シ前時ノ書類ト照査シ前時ノ軍醫正ヲシテ其口供書ニ就テ之ヲ檢實セシメ非違ナキ時ハ將官ヨリ前時ノ隊若クハ近傍ノ會計會議ニ下シテ第二十四條並ニ第四十九條

孤寡  
婦兒  
特就  
別置  
處別

以下ノ例ニ從ハシム

司契課ニテ之ヲ受ケタル時其日附ヲ檢シ若期限  
外ニ在レハ之ヲ還付ス然レモ司契故ナク之ヲ收  
受セサル時ハ當該ノ軍人直子ニ司令將官ニ歎訴  
スルヲ得

第六十五條 寡婦扶助料其夫ノ傷病ニ基ツク者ハ  
其傷病ヲ受ケタル事故ト傷病ノ質トノ照査ニ供  
スヘキモノアルヲ主トスルヲ前條軍人ノ傷病ニ  
就テ揭示スル所ノ如シ而シテ之ヲ証スル者ハ軍  
醫若クハ市井醫員ノ公文証書ニシテ其文中ニ當

二十六  
千葉縣

該ノ患者竟ニ其傷病ニ由テ死ニ至リシヲ陳述  
スヘシ

若其死沒一旦傷病平復ノ後ナルカハ其寡婦第十  
三條第三款ニ揭示スル處置ヲ仰グコトヲ得ス故  
ニ其死去戰地ノ事故ニ源因スル時ハ其証據ニ供  
スヘキ公ケノ報告若クハ其事故ヲ確証スル公文  
若クハ陸軍官憲ノ証書若クハ其官憲ノ報告或ハ  
査問會議ノ書類等ノ内其一ヲ以テ保証ニ供シ且  
上ニ舉ケタル醫員ノ証書ニテ其事故直ニ當該  
軍人死沒ノ源因タルヲ明証スヘシ

此兩証ヲ有スレハ其寡婦其夫ノ死去ノ日其住スル區ノ戸長ニ報スル死去ノ証書中ノ日附ヨリ六ケ月以内ニ其願書ヲ呈スルヲ許ス

第六十六條 其死没ノ源因疫癘傳染ニ係ル者ハ其證據ニ供ス可キ者左ノ如シ

第一 府縣若クハ陸軍官憲ノ証書 是ハ其軍人死去ノ節其死去セン地方ニ於テ其疫疾流行セシメトヲ証スル者

第二 陸軍官憲ノ証書 是ハ當該軍人ノ死没其服役中ニ在テ疫疾ニ罹リタルヲ證スル者

第三 醫員合式ノ証書 是ハ當該軍人死去セン病院ノ院長軍醫若クハ此患者ノ執事タリレ陸軍若クハ市井ノ醫員ノ診斷書ナリ若軍醫ノ診斷書ヲ得ヘカラサル時ニハ其地方ノ府縣若クハ陸軍ノ官憲ヨリ遣ハシタル檢官ノ証書ヲ附スヘシ

第六十七條 疫癘傳染ニ由テ死没ニ至リシ軍人戰地若クハ公務ノ外ニ於テシ又戰地ニテ之ヲ受タルモ一旦平復ノ後ナルキハ此例ニ在ラス

第六十八條 凡テ寡婦ヨリ出願スルニ就テ證據ニ

願出  
方ノ地

供スヘキ件々ハ當該軍人ノ孤兒第十六條ノ例ニ準シ其母ニ代ハル時モ亦異ナルコトナシ

第六十九條 寡婦孤兒扶助料ノ願書ハ居住地ノ府縣廳ヨリ外國ニ在ル者ハ外務省ヨリ北海道ニ在ル者ハ開拓使ヨリ内務省ニ移シ内務省ヨリ陸軍省ニ照會シ陸軍省ヨリ當該軍人本屬ノ領臺ニ下シ查覈ノ上再ヒ陸軍卿ニ呈シ卿之ヲ正院ニ移ス  
第七十六條ノ如シ

第七十條 其願書ハ寡婦ノ扶助料ナレハ寡婦ノ主名ニテ親族若クハ其郷里ノ戸主二名証人ニ立テ

二十八 千葉縣

連名タルヘク孤兒ノ扶助料ナレハ後見人一名又ハ親族若クハ其郷里ノ戸主二名証人ニ立テ連名タルヘク而シテ區戸長之ニ奥印スヘシ

第七十一條 寡婦扶助料夫ノ傷痍疾病ニ基ツク者ハ第六十五條若クハ第六十六條ノ証書ノ外夫ノ服役明細書婚姻届書ト並ニ男女子アレハ其年齢書ヲ副フヘシ若シ男女子年齢書ニテ其配合ヨリ生レタルコトヲ証シ戸長ノ奥印アレハ婚姻届書ニ及ハス

第七十二條 停年恩給ニ基ツク寡婦ノ扶助料願書



ニハ其夫ノ服役明細書男女子年齡書其夫ニ政府ヨリ給シタル恩給番號登錄寫帖即チ恩給証書ヲ副シヘシ

第七十三條 其遺孤母ナク直ニ父ノ傷病疾病ニ基ツク恩給ヲ受ル者ハ婚姻届書ヲ除キ母ノ死去若クハ離縁ヲ届ケシ証ヲ出スノ外第七十一條ノ例ニ異ナルコトナシ其母死去ノ後恩給ヲ繼クノ孤兒ハ恩給番號登錄寫帖即チ恩給証書ヲ副シヘシ

第七十四條 下士兵卒並ニ同等ノ輩退職恩給ヲ獲

二十九 千葉縣

ルノ種ヲ得タル者ハ其免役ノ時ニ當リ其恩給許可ノ命下ルマテ其隊ニ駐マルヘシ然レモ直ニ歸郷ヲ願フ者ハ亦自在タルヘシ但シ其歸郷ヲ願フ者ハ發程ノ日ヨリ除隊スヘシ

右ノ除隊ニ屬シタル者ハ發程ノ日ヨリ陸軍定額内ヨリハ旅費ノ外一切之ヲ給スルコトナシ其傷病疾病ニ基ツキ退職ヲ許ス者ハ其所屬ノ隊ニ止マリ計算進達ノ日ヲ待ツヘシ

第七十五條 上長官士官准士官並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ輩服役停年ニ由テ退職ヲ願ヒ

タル者ハ其進達帖陸軍卿ノ受領ヲ歴タルノ報ヲ得ルノ後ニアラサレハ其所屬ノ隊ヲ離ルヽコトヲ得ス然レモ其情願ナレハ檢閱使直チニ傳給ノ半額ヲ給シテ之ニ六ヶ月ノ休暇ヲ給フコトヲ得而シテ已ムヲ得サルノ事故アリテ其額臺ノ司令將官並ニ其隊ノ首長之ヲ保証スルハ更ニ休暇ノ願ヒヨ許シ猶六ヶ月ノ休暇ヲ給フヲ得ヘン但シ休暇間ノ月日ハ計算ノ時之ヲ除ク

第七十六條 凡ソ計算ハ陸軍卿之ヲ主任シ台式ノ恩給計算書ヲ作り之ヲ正院ニ移ス

其傷病疾病ノ恩給ニ係ル者ハ預メ其証憑書類ト共ニ陸軍軍醫總監ノ會議ニ付シ而シテ後ニ之ヲ計算ス

正院ニテハ計算書ヲ大藏卿ニ移シ點檢ヲ歷テ再ヒ正院ニ移シ正院ヨリ恩給許可ノ令ヲ内務陸軍兩卿ニ移シ其所轄ヲ歷テ當該人名ニ下サシム

第七十七條 停年恩給ハ之ヲ受ル軍人ノ官階ニ準スルヲ例トス然レモ其官階ニ進ミ現役ニ服スル未タ進級條例ノ停年最下限ノ半ニ至ラサル前ニ退職ヲ願フ者ハ前官ニ準シテ之ヲ賜フヲ例トス

第七十八條 凡テ上長官士官准士官下士並ニ同等ノ諸官其官階ニテ現役ニ服スルコト十二年滿限(上長官士官准士官並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ輩ハ非戰ヲモ算ス)ソ者ニハ其官階ニ屬スル恩給五分ノ一ヲ以テ之ヲ増スコトヲ得此特別ノ例ニ係ル恩典ハ或ハ停年ニ由リ或ハ傷痍疾病ニ由リテ表中最上限ノ權ヲ有スル者モ亦是ニ與カルコトヲ得

第七十九條 恩給計算ヲナスニ當リ其軍人前官ニテハ十二年滿限ニ當リ五分一ノ増加ヲ得ルヲ以

三十 千葉縣

テ其増加ノ額現在ノ官階ニテ算スルヨリモ較上ル者ハ前官ニ準シテ之ヲ算スルコトヲ得

第八十條 毎年政府會計ノ期ニ於テ從來各種ノ恩給ニ就テ其年ノ通計ヲ以テ來年ノ多寡ヲ量リ大藏卿ヨリ正院ニ上申シ決議ノ上太政大臣ヨリ大藏陸軍兩卿ニ之ヲ下付ス

第八十一條 凡ソ恩給扶助料受領ノ者ハ内務省ヨリ其居住地ノ府縣廳ヲ歴テ其恩給登錄寫帖即チ恩給証書ヲ受領シ是ニ據テ年々府縣廳ヨリ金圓支給ヲ仰クヲ得

給後恩

其當該人名慰給証書ヲ受領スルノ前ニ陸軍卿ヨ  
リ計算ノ告示ヲ該名ニ下シ其中ニ計算ヲ立ル本  
則ト之ニ屬スル諸事ヲ告示ス

第八十二條 罷役後恩給ハ上長官士官准士官並ニ  
會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ輩罷役ニ入ルノ  
初メ服役買期十五年滿限ノ者ニ非レハ之ヲ受ル  
コトヲ得ス

其給額ハ當該上長官士官准士官並ニ會計軍醫馬  
醫軍樂各部右同等ノ輩官階ニ準スル恩給ノ最下  
限ノ給額三十分ノ一ヲ以テ服役買期ノ年數ニ乘

三十一 千葉縣

シテ給ス但シ罷役後恩給ハ從軍年並ニ十二年停  
年ヲ算入スルノ恩典ナシ

第八十三條 罷役後恩給ハ當該軍人ノ生涯ニ止リ  
變シテ寡孤扶助料トナルコトナシ

第八十四條 軍人疾病不治ノ症ニ因テ罷役ヲ願フ  
者ハ其願書疾病ノ爲メノ退職願ノ加ク之ヲ扱フ  
ヘシ

其不治タルヲ証スル爲ニ診斷ヲナス醫官ハ鎮臺  
司令將官ヨリ之ヲ命ス  
其診斷不治ト決スル者ハ會計會議ニ付シ爾後ハ